

## 令和2年度第3回浜松市森林・林業未来構想会議 報告書

- 1 日 時 令和2年9月11日（金）10:00～11:45
- 2 場 所 クリエイト浜松2階ホール
- 3 参加者 24名（委員16名、オブザーバー2名、事務局6名／別添資料のとおり）
- 4 概 要

○ これまでの会議で出た森林環境譲与税活用事業への意見・提案を踏まえ、活用方針及び活用計画（案）を作成し、この協議を実施。

### 【主な意見】

- ・持続可能な森林づくりのため、200年後を意識した政策・事業が必要。
- ・新規・拡充事業への活用と森林環境譲与税充当事業残金の森林環境基金への積立は重要。既存事業に活用すると譲与税がどこに行ったか分からなくなるため、明確に区分してほしい。
- ・強い山・道づくりの実現や働く人のため、林道網整備等の基盤を整備。
- ・林業振興課だけでなく庁内全体（オール浜松市）で活用方法を検討してほしい。

## 5 内 容

### （1）あいさつ／山下文彦産業部農林水産担当部長

- 前回会議で森林環境譲与税を活用して実施する具体的な施策、事業について御協議・御提案いただいたが、この結果等を踏まえ、活用方針及び活用計画（案）を作成したため、この御確認・御協議をいただきたい。
- 今年度発足し、7月に第1回目を行った本会議だが、今回は今年度の最終回。是非、様々な視点から、御意見をいただければと思う。

### （2）議題

- ① 浜松市森林環境譲与税活用方針及び活用計画（案）について／事務局
  - ※ 資料1、2、3を基に林業振興課から原案を説明
  - ※ 資料はあくまで原案で、記載した事業・内容が必ず実現するわけではないことを説明

#### ② 意見交換について

鈴木将之氏）持続可能な森林づくりのため、200年後を意識した森林づくりビジョンを市民に広めてほしい。先日、芝浦工大生と Web 会議を実施。林業に関心を持ってもらうため、街中にアンテナショップなどがあり、林業をはじめ天竜地域（中山間地域）を紹介することが必要という意見が出た。

前田氏）資料は、前日の WG での意見をうまく組み込んでくれた。ただ、一部はどこに反映されたか分からないものもある。獣害対策について、

資料2「新6）浜松森林再生整備推進事業」は、防護柵強化や捕植への支援は非常に助かるが、根本的な対処法にはならない。鳥獣対策のゾーニングや狩猟への支援が必要。

長山氏) 資料3P5に記載のある「新規・拡充事業への活用」は重要。譲与税は既存事業にプラスで活用することが重要で、充実したものに使ってほしい。既存事業に活用すると譲与税がどこに行ったか分からなくなるため、明確に区分してほしい。また、同じページの「森林環境譲与税充当事業の残金は確実に森林環境基金に積み立てる」こともぜひお願いしたい。資料3P6「森林経営管理推進事業」の予算額と決算額に差があるが、森林環境基金積立金は変わっていないため、一般財源化していると思う。譲与税と一般財源の双方を効果的に活用し林業振興を図ってほしい。

和田氏) 長山氏からも発言があり、浜松地域森林組合協議会でも要望を出させていただいた「新規・拡充事業への活用」と「森林環境譲与税充当事業残金の森林環境基金への積立」は強くお願いしたい。4年後、森林環境税が開始されるが、本市は譲与額が多額で非常に目立つ。市民に分かりやすい「税の見える化」が必要。原案はうまくまとめてくれたと思うため、これを実現し、市民・国民に森林環境譲与税の活用が見える仕組みを整えてほしい。

小木氏) 森林環境譲与税活用事業を実施した後の事業効果のチェック、検証を行いその結果や成果等を会議で報告してほしい。

また、資料3の環境譲与税活用方針及び活用計画案の使い方を教えてほしい。市内部の資料に留めずにHP等で市民に公表してもらいたい。  
→ 計画は、今後、財政課との協議や議会での審議が必要。その後、事業の予算額等が決定したらHPなどで報告する。

岡部氏) 当社は、昨日・今日と丸太がなく休業している。9月は金・土・日曜日は休業予定。強い山、強い道づくりを実現し、雨が降って丸太が生産できないことのないようにしてほしい。また、近年、枝虫の被害を受けた丸太が多くなっている（枝虫被害丸太は製品価値が大幅に下がる）。この対策を検討しないと木はあるが製品にならない状況が危惧される。製材業である当社は、生産された丸太を無駄なく製品にすることが使命と考えている。大切に譲与税を使ってほしい。

高林氏) 最近、天竜材を使いたい案件がありなんとか納材できた。今回は納材できたが、間に合わず外材を使用するときがあるため、安心して天竜材が活用できるよう、安定的に丸太生産をしてほしい。また、資料2「林業ミュージアム的な場所」に対し、ハード整備は困難との方針があったが、あったほうがいいと思うし、是非やってほしい。林業振興課だけで考えるのではなく、教育委員会等も含め、オール浜松市で活用方法を検討してほしい。

鈴木宏昭氏) 前回、木材利用 WG に参加し、住宅・非住宅への補助制度の拡充を要望した。今回、天竜材の家百年住居の事業事業を見直す旨の発言があった。天竜材の家百年住居の事業事業は一般財源を活用しているが、譲与税を使ってもいいので制度を拡充してほしい。

石野氏) 資料 2 「市公共建築物の新築は少ない」とのことだが、ミュージアムやアンテナショップの必要性についての発言もあった。是非、公共建築課等と協議し、木材利用の拡大を検討してほしい。また、林業分野について「現場に行くため自分で道を開設する産業」はない。是非、働く人のためにも計画書に林道網整備等の基盤整備を強い言葉で記載してほしい。また、森林組合関係者から意見もあったが、「森林環境譲与税充当事業残金の森林環境基金への積立」は必要であり、余ったから一般財源に回すのはまずいと思う。山は 100 年以上の期間で育てるものであり、あまり目先の話にとらわれのようにしたい。基金に貯めておいて、必要な時に活用する流れを強く伝えてほしい。

村松氏) 設計業は直接施主と接する。この時、施主に対しどのように木を使う価値を説明できるかが大切で、これには設計業者に知識が必要。単発の講習会では困難であり、この取組を継続して行う必要がある。資料 2 「新 4) はままつ「FSC 木づかい宣言」事業者登録制度推進事業」の説明があったが、建築の施工や設計の事業者にとって登録して木づかい運動として PR することは、建築その物を宣伝することになる。建築・設計関連の団体に広く周知し、多くの事業者登録と HP 以外にも有効な PR 方法が必要だと思う。H29、30 年度に浜松ウッドコレクションを行ったが 2 年で終わってしまった。建物の宣伝は重要でパンフレットなどを作り天竜材の知識とあわせ PR すべき。全体的に PR が不足している。天竜材の家百年住居の事業において、設計・施工業者にメリットがないという意見があったが、行政が PR してくれることは大きなメリット。

鈴木健太氏) きっと数年経つと状況は変わるため、本計画が不十分になるかもしれない。現場と行政との意見交換ができる場を作ってほしい。また、当グループは既存事業・出前講座に協力しているが苦勞しているため、改善してほしい(謝礼 5,000 円/人は安い)。

山田氏) 本会議は良い機会だったが、もっと横の連携が欲しかった。私は環境教育関係で出席したが、林業分野の協議に入りたかった。具体的な新規事業への意見としては次のとおり(資料 2 関係)。

- ・新 5) 山地災害予防緊急対策事業/間伐率を選べるようにしてほしい。該当地に合わせた施業が必要で生態・砂防等の専門家の協力が必要。
- ・新 2) 浜松版スマート林業推進事業/ICT を活用した林分確認、生産性向上、需給調整等の視点が必要。現状、新型コロナウイルス感染症の影響で過剰な生産調整をしてしまった。需要量が分かればこのような状況は発生しなかったため、「需要調整のマッチング」をテーマに入れ

たほうが良い。

- ・新4) はままつ「FSC 木づかい宣言」事業者登録制度推進事業／非住宅物件に「天竜材使用プレート」を設置してほしい。木材をみただけではどこの木かわからない。興味のない人にも分かる仕組みを作るべき。また、市役所内の各課と連携してほしい。私は天竜高校に勤務しているが、学校教育分野との連携をしたい。木材を使う、森を維持するなどを教育分野全体で取り組んでほしい。併せて、本会議だけでなく、山地災害予防や防災の森づくり、広葉樹の森づくりなどの専門家と協議する場が必要。

松下氏) 前回の WG で協議したことが組み込まれていると思う。提案にはやれることと、やれないことがあるのは理解する。記載された新規事業等を丁寧に実施していくことが大切。譲与税は、市民や全国から注目されると思う。広報活動を大切にし、用途をしっかりと伝えてほしい。これが一般財源に組み込まれることへのストップの理由になる。資料2「新3) オリンピックレガシー創造事業」は東京 2020 大会の開催が不安だが、提供木材を効果的に活用してほしい。

小林氏) 新規事業への意見としては次のとおり (資料2 関係)。

- ・新4) はままつ「FSC 木づかい宣言」事業者登録制度推進事業／HP だけでなく様々な PR 手法を検討されたい。(名立てに FSC のロゴあり) FSC ロゴマークの横に「天竜材」と入れるような工夫が必要。
- ・新1) 天竜美林の未来づくり創造事業／提案された事業への支援は良いと思う。私案だが、クラウドファンディングで提案事業に対して支援する手法もあり得る。主体的に市民から意見をもらえる機会があるといい。
- ・新2) 浜松版スマート林業推進事業／林業ミュージアム的な場所に関する意見があったが、ミュージアムを VR でつくるなどの手法もある。

岩崎氏) 構想はざっくりしたものになるが、キーワードは「200 年後」。常に 200 年後を見据えることが必要であり、基金に積み立てることも単年度ではなく、200 年後を見据えた取組として必要だと思う。200 年後は曾孫世代であり、世代を超えた伝承が必要。このため、教育やミュージアムは重要だと思う。ハードは難しくても VR でもよい。この会議室はコンクリートの打ちっぱなしだが、天竜材で腰壁を作り説明すればミュージアムになる。ハード事業でなく、市内のあらゆるところにミュージアムをつくるのが可能になり、200 年後には街中が森林・林業のミュージアムになり得る。大枠を抑え、譲与税を 200 年後のために活用したい。また、最近地元産マスクの自動販売機ができたが、自動販売機やガチャガチャで FSC 材の木材製品を販売したりするなど、予算をかけずに面白いことはできると思う。

石川氏) 新規事業への意見としては次のとおり (資料2 関係)。

- ・新2) 浜松版スマート林業推進事業／ICT や森林 GIS、林班のデジタル

化等は、現状把握の上で行うべき。 県森林情報共有システムでも一定の情報は公開されている。浜松らしく、既存データを効果的に活用してほしい。

- ・新4) はままつ「FSC 木づかい宣言」事業者登録制度推進事業/木材利用には「一般ユーザへの周知広報」と「技術者の木材活用知識浸透」の両面が大切。 前段はスターバックスコーヒーなどとの連携で社会の認知度を活用し、広く周知することが可能。後段は実務としての落とし込みが必要だが、足りないと感じる。この登録制度は「事業者が周知したいから登録する」のか「技術力を持っているから登録できる」のかが分からない。 講座を2～3回開催しただけで天竜材を使うようになるかは不明。

また、本取組について、林業振興課のみに留まらず庁内全体で取り組んでほしい。 資料3P6に他課の事業が2つ掲載されているが、他課と連動・協力して進めることが重要。環境教育ならば IC 教育や森林教育との連携が可能。時間がかかるかもしれないが進めてほしい。

高木氏) 川上対策をどのように守っていくかが大切。 譲与税は R1 から R2 年度に倍増したが、理由は災害対策であり、手入れが行き届いていない森林の整備が進むことを期待したい。また、前年度からの継続事業も多いため、PDCA サイクルをしっかりとまわして見直し、拡充を願う。

太田氏) 川上から川下までバランスよく事業を配置したと思う。出口対策は重要であり、出口が進めば川中・川下も活性化する。県としては、市と連携できる事業が多いため、今後調整したい。今後、計画ができるが、市に任せるのではなく、全員で支えていきたい。

山田氏) 今後の予定は。

→ 当課で事業の詳細を精査して、財政課と予算折衝を行う。来年度事業が決定したら送付する。本会議は来年度以降も継続し、R4 年度以降も見直しなどを進めたい。

村松氏) 私は川下側の立場（設計業）。会議の参加者に川下側が少ないと思う。木材を利用する側の声をもっと聞いてほしい。

石野氏) 確かに木材を利用する側の意見を聞くことは重要。また、ICT 関係において、ICT を活用し森林調査を行うことは重要だが、調査したから木材生産が進むわけではない。 山の実態が分かることは大切だが、需給調整とは別であるため、間違わないほうがいい。

令和2年度第3回浜松市森林・林業未来構想会議 会場の様子

